

|                               |  |             |      |
|-------------------------------|--|-------------|------|
| <b>区分</b>                     | 専門分野   | <b>単位</b>   | 2単位  |
| <b>科目名</b>                    | 経過別実習Ⅲ   | <b>時間数</b>  | 90時間 |
| <b>講師名</b>                    | 専任教員   | <b>履修学年</b> | 2年次  |
| <b>概要</b>                     | 成人期および老年期にある慢性期から終末期の対象を理解し、健康上の問題に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。  |             |      |
| <b>学習目標</b>                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の発達段階と特徴を踏まえて、病気の寛解・増悪を繰り返し疾病をコントロールしながら生活している慢性期や急速に病気が悪化し、終末期の経過をたどり全人的苦痛を抱える対象を理解できる。</li> <li>2. 対象の健康上の問題を把握し、問題解決にむけて個別性を考えた援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の身体機能の維持・回復を促すとともに病状の悪化・合併症の予防のための援助ができる。</li> <li>2) 対象が疾病の経過を受け止め、意欲を失うことなく、その人らしい（QOLを考慮した）生活ができるような援助ができる。</li> <li>3) 患者および家族の価値観、信念と生活に及ぼす影響を考えながらセルフケア能力に応じた日常生活支援、自立への援助ができる。</li> </ol> </li> <li>3. 継続看護の必要性を理解し、他職種連携、協働の実際を学び、保健医療チームの一員として責任ある行動がとれる。</li> <li>4. 自己の看護活動の場面を振り返り、状況に応じた対象との円滑なコミュニケーションを図ることができる（患者・家族・指導者）。</li> <li>5. 臨地における自己の学習能力・看護実践能力を評価でき、自己の課題を明らかにできる。</li> </ol> |             |      |
| <b>授業内容（実習内容）</b>             |  |             |      |
| <b>実習方法</b>                   |  |             |      |
| 実習場所：市内病院施設 数か所               |  |             |      |
| 実習方法：3週間の実習を行う。               |  |             |      |
| 経過別実習Ⅲオリエンテーション（2h）           |  |             |      |
| 病棟実習では患者一人を受け持ち看護過程を展開する（88h） |  |             |      |
| 実習内容：別紙参照                     |  |             |      |
| <b>成績評価の方法</b>                |  |             |      |
| 出席状況、実習目標の達成度、実習姿勢、記録物による総合評価 |  |             |      |
| <b>備考</b>                     |  |             |      |
| 実習準備・オリエンテーション実習開始前に行う。       |  |             |      |
| 実習前に課題レポートを提出する。              |  |             |      |
| 実習期間中は、自己の健康管理に十分留意する。        |  |             |      |